

さいたま  
見沼

# よみせんぽ

2020

Vol. 35

まち歩き ③

染谷～古代から続く人の営み



記録写真家 柿内未央

## 染谷～古代から続く人の営み

染谷（さいたま市見沼区）に暮らし始めて十数年，梅が咲き誇る時期に自宅からほど近いやどかり情報館に歩いて向かう途中，ピンクに染まる景色に「染谷」を重ねて，素敵な地名だな，と思っていました。今回は，「染谷」の地をいくつかの文献と歩いてみたいと思います。

### 「見染めヶ谷」

「昔むかし，染谷の西側には大きな沼が広がっていたそうな」……染谷という地名の由来となる伝説があります。沼ではコイも捕れれば，フナやナマズも捕れました。ある日，村一番の働き者で評判の男が朝から漁をしていたものの，この日ばかりは雑魚一匹かかりません。がっかりして家路につこうとすると，沼よしの中からすすり泣きの声が聞こえる。その美しい娘は，遠い南の人魚の生まれ変わりで身体が弱く，養生しようと国を出ましたが，道を誤って辿り着いたといいます。2人はいつしか心を結び合うようになり，それからこの地は「見染めヶ谷」，「染谷」と呼ばれるようになりました（「片柳のむかし」）。井沢弥惣兵衛によって新田開発がなされる70年余り前，正保年間（1644-1647）に作られた村絵図には，片柳地区を包み込むように三沼（見沼）の溜池が描かれています。人々の暮らしに自然の恵みも怖さももたらす，暮らしの一部だったことも伺えます。



イラスト：永瀬恵美子

地名の由来には，染屋を職とする人が住んでいた，という説もあります。江戸時代の1746（延享3）年の村明細帳（領主が視察に来た時などに，村の概況を知らせるために名主が作成したもの）では，当時の武州足立郡南部領染谷村は，「戸数28件，人口207人，馬6疋ひき」，生業は大部分が農業従事者で，「居酒屋1，紺屋（染物屋）

2」があった，との記録があります（「片柳のむかしを探る」）。

### 常泉寺を訪ねて

武州（武蔵国）は，現在の埼玉県・東京都・神奈川県の一部を含む東国の大國で，7世紀の末頃にはその輪郭がほぼ固まっていたそうです。戦国の世を経て，豊臣秀吉が徳川家康に關八州を与えたことにより，大宮の地も徳川の支配下に。関東に入国した家康は，新領地の経営には極めて慎重で，元城主の旧臣を旗本に登用して知行地を与え，寺社にも朱印地を寄進して民心掌握を図りました。染谷村の常泉寺にも1591（天正19）年，家康から寺領10石が寄進されました。染谷は，幕府直轄の天領，旗本支配の私領，寺社領に分給される複雑な支配体制だったようです。ほぼその体制が続き，1889（明治22）年4月1日，染谷村は近隣の10か村と合併して片柳村になり，1955（昭和30）年1月1日に大宮市と合併しました。

大宮駅東口から伸びるバス通りを根木輪の停留所で降りて少し歩くと，常泉寺（さいたま市見沼区）があります。向かいには以前商店があって，私も息子もちょっとした買い物に寄っていました。大晦日には常泉寺から響く鐘の音とともに新年を迎えます。その沿革を見ると，1523（大永3）年に，開山した雪庵寿欽が亡くなったと「新編武蔵風土記稿」に記されているとあり，500年ほど続くお寺です。岩槻城主の側室のお墓があり，染谷村の一部が岩槻城阿部氏の領地になったゆかりで建立されたようです。私はさいたま市と岩槻市が合併した際に，岩槻は文化も違う隔たった地のように思っていたのですが，そうではなかったのですね。

### 平和，いのちの尊さに向き合う

本堂の横に，「広島・長崎の火」のモニュメントがあります。広島原爆投下後，叔父の消息を尋ねた男性が，焼け跡の地下の書庫に燻っていた火を懐炉に移して故郷の福岡県星野村に持ち帰り，その後同村で平和の火として灯されました。この「広島の火」と，長崎原爆瓦から採火された「長崎の火」は，1988（昭和63）年，全国を巡る平和行進の先



広島・長崎の火

頭に掲げられ、第3回国連軍縮特別総会に届けられました。埼玉県でもこれらの火は県内を行進し、原水爆禁止埼玉県協議会の依頼により常泉寺で灯し続けられています。毎年、「広島・長崎の火を囲むつどい」が開かれています。

私が訪ねた時、ちょうど26回目のつどいの準備をしているところで、境内の落ち葉掃きに汗していたのは「さいたま・常泉寺に『広島・長崎の火』を永遠に灯す会」事務局長の昼間忠雄さんでした。「地域の人とか、少し離れたところからも参加があるんですよ。ここの住職さんは、そうしたことに理解があって」と、もう1つのエピソードにも触れられました。

1923（大正12）年9月1日、関東大震災の時、朝鮮人の虐殺が各地で発生しました。染谷でもデマに惑わされ、迷い込んだらしい朝鮮人を殺してしまうという事件がありました。申し訳ないことをしたと、村人と常泉寺の尽力で墓を建立しました。犠牲者は姜大興（カンデフン）さんという人で、9月4日が命日。追悼会も行われていますが、個人名が明らかになっている朝鮮人犠牲者は数少ないそうです。「住職さんや檀家さんの理解が深いのでしょうか」と昼間さん。負の経験にも蓋をせずに向き合う人々の姿勢が、受け継がれているように感じました。

## 古代から息づいてきた地

常泉寺の近くに老人福祉施設があるのですが、お寺の人に聞くと「この地域



境内・蟬時雨の中で

の人たちにとっても必要になるだろう」と住職さんが建てられたそうです。地域の人々の暮らしを気遣う姿が伝わります。また、この近くで竪穴式住居跡が見つかったとのこと。アライヘルメット片柳工場の北側付近、八雲貝塚と呼ばれるもので、1964（昭和39）年の宅地造成中に、貝層や土器の破片、直径約2メートルの円形の住居跡が出土。深さ約20センチの竪穴式住居で、縄文時代早期の約7,000年前、旧大宮市内では最も古い住居跡とされています。

私が染谷に引っ越して来る前、息子とどんぐりを拾いに日本大学のキャンパス

に散歩に出た時、復元された住居跡を見つけて驚きました。まさかこんな身近に遺構があったとは……

## 引き継がれた豊かさの中で

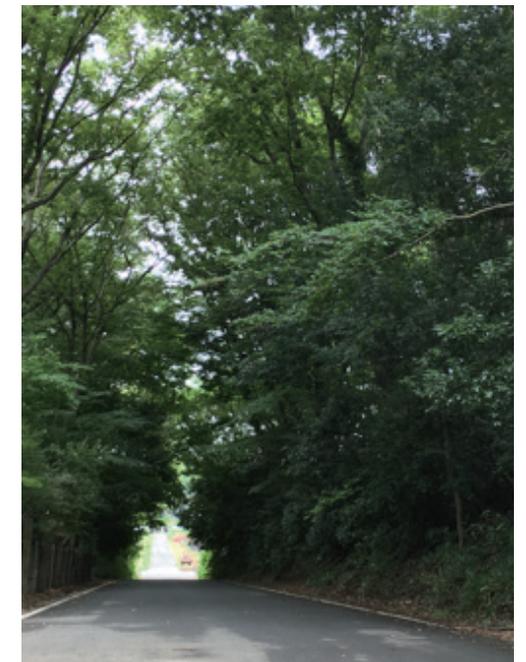
常泉寺付近をほんの数メートル歩いただけで、ぐっと古代までタイムスリップして、様々な発見がありました。でもこれはまだまだ染谷のほんの一部。北に行けば、天王様のお祭りが復活した八雲神社や、ひっそりと佇む氷川神社、樹齢200年を超すタラヨウに、何だろう、と気になる石造等々。

今回、原稿を書くにあたり図書館で多くの文献にも出会いました。明治、大正生まれの人たちの当時の暮らしや思い出が綴られ、安全や豊作を願うたくさんの方の行事があったこと、川や田んぼで生き物を獲り自然の恵みを頂いたり、草花を薬にしたり、人々の息づかいと、それらを残そうとする人たちの思いが伝わってきました。

染谷しょうぶ園の前を通り、木々のトンネルを潜ると加田屋の田んぼが開けてきます。お気に入りの散歩道で、夏の夜には、樹液をすするカブトムシがいる秘密の場所にも通いました。今は整然とした公園になり、息子が時間を忘れて遊んだ田んぼや雑木林も少なくなってきました。その維持の厳しさを想像しつつ、引き継がれてきた豊かさの中で息子が育まれてきたこと、感謝の思いは変わりません。

（記 永瀬恵美子）

- 1) 『片柳のむかし』刊行委員会、大宮市片柳公民館編：片柳のむかしー郷土をつづるー、1988年
- 2) 若山法一：片柳のむかしを探る；私家版、1978年（2007年複製版発行・さいたま市立片柳図書館）
- 3) 大宮市：大宮のむかしといま、1980年
- 4) 大宮市教育委員会社会教育課：大宮市文化財調査報告第20集 染谷遺構群発掘調査報告、1986年





## 未来を拓く

# つなぐ・つくるプロジェクト・3



## 地域をみんなでデザインする

自然と共生する暮らしを、人のつながりで実現しよう！

新型コロナウイルスが突如として私たちの暮らしを脅かし、「新しい生活様式」を求めざるを得ない状況となってしまいました。得体のしれないウイルスへの恐怖、先行きの見えない不安、他者との接点を極力少なくすることを求められる日々。しかし、家にこもることが安全だったステージから、知恵と工夫で自分たちの安全を創り出していくステージに変わりつつあるのではないのでしょうか。

そんな中でやどかりの里は、地域の宝を探しながら、その宝を活かす場づくりを考えるプロジェクトに取り組んでいます。その名も「未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト」(TT プロジェクト)。地域で活動するさまざまな分野の方たちとの出会いと学習を通して、新しい未来への扉を開く準備を進めています。

### ヤギと暮らせる地域をつくらう

「子どもたちに誇れる地域を残す」と語ってくれたのは、芝川小学校（さいたま市大宮区）の前PTA会長の岡野友敬<sup>ともたか</sup>さん。小学校でのヤギ飼育は、動物を飼うという負担感がありながらも、動物がいることで癒されたり、人が集まれるようにとヤギ部の活動を開始しました。誰でも関われる、誰でも楽しめるのがヤギ部の活動。その関わりを増やしていくことができるのも大きな魅力です。人が訪れたい学校にしたい、という思いのもと、ヤギの存在が地域と学校をつなぐきっかけになっています。

### 森づくりは人づくり、つながりの輪・和

「自然の森はいろいろな種類の樹が混ざり合っている。好きなものだけ集めてはだめ。人間社会も同じ、まぜる・まぜる・まぜる」が大切と語ってくれたのは、株式会社研進<sup>いであわ</sup>の出縄貴史社長。その土地にあった苗を育てて植樹し、植えられた樹の管理をその土地にある福祉施設に任せていくという育樹の取り組みをしています。これまで6万本を植える実績を持ち、いのちの森づくりプロジェクトとして、参加する仲間とのつながり「どんぐりブラザーズ」が、各地での植樹・育樹の活動を支えています。植えた苗の数だけ、人のつながりが生まれているといえるでしょう。

### 食べることは生きること、人と人をつなぐこと

「100年後のために仕事をする。今やっている利益は子どもたちのため」と語ってくれたのは、自然栽培農家の明石誠一さん（明石農園）。日々の食卓を大切にすること、あたたかい食事をみんなでいただくことを「農的食卓コミュニティ」と表現しています。「食べることは生きること」、すべての人に共通のことです。自然のあるところに、誰もが参加できる、集える機会をつくり、それがきっかけとなって自発的なコミュニティがあちこちでできていくのだそうです。コミュニティづくりの基本はコミュニケーション。「食」を囲む「食卓」に生まれる「会話」、コロナ禍であってもなくしてはいけないものではないのでしょうか。

3人の話に共通していることは、「自然とともに暮らす」「ちょっとずつ力を出し合う」「未来のために今できることをする」ということです。

「きょういく」と「きょうよう」が大切だと言われます。「今日行くところがある」「今日用がある」という意味です。地域の中に自分の居場所があることや必要とされる役割があることは、すべての年代のすべての人に必要なものではないのでしょうか。ヤギ部に参加して、ヤギニケーションを楽しみませんか？どんぐりブラザーズの一員になりませんか？

まだまだ地域にはたくさんの宝が埋もれています。まだ出会っていない人たちとの新たな出会いをプロジェクトにつなげていきたいと思います。ぜひ仲間になりましょう。

(記 大澤 美紀)

## 芝川ヤギ部ヤギ日誌

# ヤギがつなぐ和・輪・環 ②



前ページでご紹介したプロジェクトでは、「ヤギ」に注目しています。芝川ヤギ部（後述）の「楓」と「桜」の2匹のヤギがきっかけでした。

2匹が茨城県五霞町から埼玉にやってきてからの一時、やどかりの里サポートステーション隣の「やどかりテラス」の東屋にショートステイしていました。

### 「ヤギニケーション」発生

「サポートステーションでヤギを飼い始めたらしい」とやどかりの里でも一気にうわさが広がりました（実際には芝川ヤギ部からお預かりしていると知ってがっかりする人もいたとかいないとか……）。東屋に慣れてきた2匹は、やどかりの里でコーラス活動が始まると、まるで一緒に歌っているかのように「メ〜〜〜♪」と啼いたり、人が通れば「おやつくれるの？」と言わんばかりに、柵に近寄り、首を長く？してのぞいたり……そのしぐさの何とかわいらしいこと。柵をこじ開けて脱走し、柵の外でのんびり草を食べていて、見つけた人をびっくりさせたこともありました。

楓と桜がいることで、普段閑散としているやどかりテラスに、子どもたちや地域の人たちが立ち寄ってくれるようになりました。芝川ヤギ部代表の岡野友敬さんの言う「ヤギニケーション」の自然発生です。

一昔前はヤギも普通に飼われていたこともあったそうですが、今では街でヤギを目にすることはほとんどありません。さいたま市にも大きなビルが建ち、住宅が多く開拓され、自然が少しずつ少なくなっています。犬や猫などの小動物なら都会でも飼えますが、ヤギには緑と土など自然ある環境も必要です。ちょっと珍しい、人によっては懐かしい……そんなヤギの存在は、いつもと変わらない何気ない日常を、大人も子どもも、障害のあるなしも関係なく人々が集い、笑顔で交流する場に変えていかれる可能性を持っています。ヤギを飼える自然環境を残しながら、ヤギニケーションを広げていけたら、人と人のつながりも広がって、楽しい街になっていくのではないかな。そんな夢を描いています。

## ヤギのお世話

現在、楓と桜は芝川小学校の飼育小屋で暮らしています。飼育小屋には、<sup>うごつけい</sup>烏骨鶏やチャボもいて、仲良く同居中。小学校の正門を入れてすぐの場所に住んでいます。先生や子どもたちも可愛がってくれていますが、えさやりや散歩など、ヤギのお世話は芝川ヤギ部が行っています。芝川ヤギ部は「自分たちのできることをする」方針なので、日常的に関われる主力メンバーは多くはありません。散歩、小屋を掃除し、えさにする草を刈って小屋近くにストックしたりと、命ある生き物であるヤギが幸せに暮らすためには、ある程度手間暇をかけなければなりません。日々のお世話をしながらヤギと仲良くなりたい人、大募集！また、応援グッズ購入も大歓迎！応援グッズを購入してくれる人が増えれば、ヤギが元気に暮らすために必要な医療費や小屋の手入れなどの資金につながりますので是非。（14ページ、芝川ヤギ部QRコード参照）（記 宗野 文）



### 目(眼球)

顔の横についている。眼球は黄色。瞳孔は茶色で周囲の明るさで変化する。こ…。



おまけに眼球を回転させる技を持つ。このこと。瞳孔を横長に以外、眼球を回転させるのは、視野を広げ、外敵から身を守る「めんどり」。360°見えるらしい…。



イラスト：宗野 文 / ヤギ部ロゴデザイン：岡野 友敬

# おおかみと 7ひきの こやぎ

並木せつ子



①『八ツ山羊』

②『おほかみ』

日本で一番有名な山羊の本といたら「おおかみと7ひきのこやぎ」ではないでしょうか。今でこそ定番の「おおかみ」と「7ひき」の「こやぎ」ですが、最初からこういう題名ではありませんでした。明治20年に出版された時は『八ツ山羊』(図①)。話の流れはほぼ同じですが、子ヤギが8匹だったのです。オオカミから逃れられた子ヤギが1匹、オオカミのお腹から助け出された子ヤギが7匹と、絵にも文にも書かれています。

次は明治22年の『おほかみ』。これも話は同じですが、なんと登場するのがヤギではなくヒツジなのです。確かにヤギとヒツジはよく似ていますし、当時はヤギもヒツジもあまりなじみのない動物だったでしょうが……。でも、さし絵(図②)にはあごひげ<sup>おおか</sup>があってヤギのように見えます。

その後も明治時代には『狼<sup>たからみ</sup>の計略』『伶俐な山羊』『狼と子羊』『羊の天下』など、ヤギではなくヒツジという本はたびたび登場しますし、題名も様々でした。大正時代になるとヒツジはいなくなり、『狼と七疋<sup>ひき</sup>の山羊仔』『七頭の小山羊と狼』『おっかさんのやぎと七ひきのこやぎ』など、だんだん今の題名に近づいてきます。

昭和になると題名は「おおかみと7ひきのこやぎ」一辺倒になってきますが、内容はそれぞれ個性があって、昭和23年の『グリム童話集』(金の星社)に載っているお話では、母ヤギの出かける場所が配給所になっています。たいてい母ヤギは森か町へ出かけるという設定ですが、戦後まもないこの頃、多くの食料品や日用品がまだ配給制だったのです。

今も図書館に行けば、何種類かの「おおかみと7ひきのこやぎ」があって、いろいろなヤギやオオカミに会えるはずです。

※①②ともに国立国会図書館デジタルコレクションより



よみさんぼ編集委員のつづやき

## 今もママ友

「まさちゃん」は手先が器用で折り紙の達人だ。野菜を育て、時々トマトを届けてくれる。2人の子どもに病気で先立たれ、孫や曾孫に会えなくても弱音は吐かない。デイサービスには週に2回、入浴がてら通っている。

「くりちゃん」はとてもおしゃれで華やかな人だが、体調が優れずとうとう入院してしまった。

「やまちゃん」ちは大地主。私が幼い頃、夏休みにはやまちゃんちで1日中遊んだ。おじさん手製の平均台や鉄棒があり、古い納屋では隠れんぼもした。かつての広い敷地には介護施設が建ち、建て直した家で孫娘夫婦と曾孫と暮らしている。

彼女たちは私が第一小学校1年1組だった時の同級生のママだ。今では90歳を過ぎて全員<sup>か</sup>寡婦となったが、同じ場所に住み続け、夫のこと、子どものこと、家業のことなど互いによく知る仲だ。

やまちゃんが骨折による入院治療から復活したので、久しぶりにやまちゃんちに集まることになった。やまちゃんが天ぷらそばを注文し、まさちゃんと母はお菓子や果物を持参する。コンビニのスイーツや総菜談義に次いで、デイサービスの情報交換となるらしい。

若いときから豊かな髪<sup>かみ</sup>の母は、最近髪型が決まらなると嘆く。右手が痛くて上手に洗髪できない母は、デイサービスでの入浴は洗髪してもらえると聞き、問題が解決するのではと考えている。そこで、デイサービスが気になる。一方、孫夫婦が働いているやまちゃんは週に5日デイサービスに通うが、自分の家から追いやられているようで気の毒だと母は言う。だから「デイサービスって何を目的に行くの？ 行かないといけないものなの？」とも思う。

さて、翻ってみると、私には地域に交流を続けているママ友はいない。母の時代とは違うとは言え、PTAでの一過性の関係だ。さてさてこれから地域に根付いて暮らしていけば、どこかでママ友と互いの人生が交差することはあるのだろうか。(記 浅見 典子)

# あの街 この街 俊一郎が行く・29

## 断食

### 鼻で笑われつつ始めた禁煙

何年か前のこと。何となく喫煙自体が面倒に感じられ、禁煙をしてみました。ただ、漠然と吸わないだけではすぐに再開してしまいそうで、医師の指導を受けるべく、近所のクリニックへ……お医者さんからいつから始めたいかと聞かれ、「今からです」と言うと、少し驚かれつつ承諾を得ました。渡された宣誓書には、禁煙したい気持ちや自信が何%かという設問があったので、共に「100%」と書いたらまたしても驚かれてしまいました。やめるつもりで来ているのに、何だかバカにされた気分でした。

### 禁煙と引き換えに得たもの

禁煙自体は順調に進みました。ただし、仕事で夜中2時に床に着いたのに、悪夢で4時には目が覚めてしまうような日が何度か繰り返され、薬で欲求を抑えられている一方で、体は正直だと感じることも。週1回の問診で、お医者さんから喫煙の有無を聞かれるのですが、指導期間の3分の2を過ぎたくらいからは「本気だったんですね」と言ってもらえるようになりました。

無事にプログラムが終了し、何年か経った今では、友人から「禁煙、続いているね」と言われるとキョトンとしてしまいます。何故ならば、本人としては喫煙習慣そのものを忘れてしまっているからです。この点では、暗示が効きやすい性分が幸いしているようです。禁煙できた代わりに、贅肉だけは増え続けていたようで、様々な服がきつuitとを感じるようになっていきますが、どうすることもできずに過ごしていました。

### 突然の宣言

ある日、3日間の出張から戻ったら、カミさんが体の調子を整えるために断

とまつりしゅんいちろう  
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。  
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）  
を複数行う。（写真 新 良太）



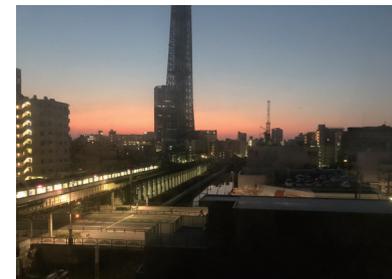
食を始めたとのこと。しばらく週1回は断食の日を設けることにしたと言うのです。だから、私も何となく付き合うことにしましたが、1日何も食べない日のことを想像すると、絶望的な気分になりました。

初めての断食の日、職場の人たちはいつも通りに食事に出かけますが、私はその誘いを断って自席で過ごします。足元にはいつも一緒に出勤している犬たちがこんこんと寝ているので、一緒にふて寝をしていると昼休みは終了。午後水もたくさん飲みつつ過ごしますが、指先にかすかな痺れを感じ始めます。まるで細胞の呻きを聞くように……ただ、不思議と頭はシャッキリとしてきて、臭いにも敏感になってくる。その後、帰宅するものの家に帰ってもすることがないので、すぐに寝てしまいました。



### 断食を終えた朝

私のしている断食が医学的に正しいかはわかりませんが、2か月続けて、体重は禁煙前に戻ることができました。食べることは生命力そのものかもしれないけれど、食べないことで、命そのものを実感できることが楽しかったのです。



断食の翌日は朝、目が覚めるのも早い。日の出前、空が白けてくるのを眺めつつ、ヨーグルトやフルーツなど刺激の少ないものをゆっくりと食べます。体に食べ物の栄養が染み込んでいく感触が心地よく、暗いトンネルから抜け出たような清々しさを感じるのです。

**あなたらしい毎日を。**  
さいたま市内を中心にビルやマンションを管理する会社です。ご自身のライフスタイルにあった時間のお仕事があります。

清掃スタッフ募集中!  
ご応募はこちら

今日も 明日も そとと。  
**毎日興業株式会社**  
〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-244-1  
TEL 0120-156365 (フリーダイヤル)

芝川ヤギ部の応援グッズ  
芝川ヤギ部は、ヤギをお世話することを通して、人と人が笑顔で交流をし、地域や社会がより良いものとなることを目的として発足しました。グッズの売上の一部と応援チケットの諸経費を抜いた収益は、ヤギさんのお葉や小屋の手入れなどに使わせていただきます。地域に癒やしを与えてくれるヤギ活動をぜひ応援ください!

芝川ヤギ部応援グッズ好評販売中!!  
こちらから!>

こころの悩み、ちょっと話してみませんか?

お住いの区の障害者生活支援センターまでご連絡下さい。

見沼区障害者生活支援センターやどかり ☎電話 048-682-1101  
大宮区障害者生活支援センターやどかり ☎電話 048-795-4720  
浦和区障害者生活支援センターやどかり ☎電話 048-793-6373

**\*精神障害のある方、そのご家族の地域の相談機関です。**

「もったいない」をつなぐ&「モノづくり」でつながる

Recycle&Handmade  
**Stairs**

公益社団法人やどかりの里 **すてあーず**  
〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 844-22 TEL : 048-688-8223

無肥料・自然栽培  
**ほしいも**  
農業・肥料・除草剤不使用

やどかり農園 (公益社団法人やどかりの里)  
さいたま市見沼区染谷 1177-4 やどかり情報館  
Tel 048-680-1891 fax 048-680-1894

**パートさん大募集!**

高齢者向け弁当の調理補助・配送のパートさんを募集しています。  
軽自動車ですさいたま市内にお弁当をお届けしています。  
週3~4日 / 11:00~17:00 / 時給960円

【お問合わせ】TEL 686-7875 (月~金 8:30~17:30 受付・祝日を除く)  
エンジュ 〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 286-1  
担当: 永瀬

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい  
**社会福祉法人 鴻沼福祉会**

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず  
どうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000  
FAX 048-854-3538  
さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

**きりしきのパン**

TEL 048-854-6910  
FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)  
職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



**弁当屋 いちず**

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。  
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

- 鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを探り、新しい仕事にもチャレンジしつづけています。
- 障害のある人たちの就業支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています! 問い合わせ先: 048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

- 本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL: 048-854-6890 FAX: 048-856-0313
- 《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)
- 《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえてホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ
- なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区) ●ひかりホーム(西区)
- 《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)
- 見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

# さいたま見沼よみさんぽ

## 作者紹介

記録写真家 柿内未央さん(表紙写真)

“人としていかに生きるか”について考えるなかで、平和の基盤は自然との共生きにあると痛感し、埼玉県の明石農園にて自然栽培を学ぶ。

生かされていること、全ての本質が等しくつながり合っていることを感受してから世界が変わり、その一部として生きたいと思うように。

自然とヒト・人と人をむすぶお手伝いがしたく、“自然とヒト”…いのちの記録をメインに活動している。

ホームページ <http://tomomusubi.com/>

## 表紙写真によせて

葉見ず花見ず 相思花  
会えずとも 互いに想い合えるのは  
“ひとつで在ること”を知っているから  
わたしが あなたであることを  
あなたが わたしであることを

ちょうど2年前にもヒガンバナの写真を撮っており、そのとき綴っていた言葉。

花が散った後で葉が出るヒガンバナには、葉見ず花見ず・曼珠沙華・天蓋花・狐の松明・雷花・蛇花など様々な別名があり、韓国では相思花といわれるのだそう。

花と葉はお互いを知ることなく終わってしまうため「葉は花を思い、花は葉を思う」……お互いに想い合うだけ、ということが名前の由来なのだそうですが、そこに“ひとつ”を感じました。

---

---

さいたま見沼よみさんぽ 第35号

発行 2020年10月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会  
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷  
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail [johokan@yadokarinosato.org](mailto:johokan@yadokarinosato.org)

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里  
理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

今号も「まち歩き」をテーマにしたお話をお届けします。

公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。

またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同